

臨床につなげる基礎!

～将来の薬剤師国家試験へ 向けた対策～

近年の薬剤師国家試験(以下、国試)では、基礎科目(物理、化学、生物)や衛生についても、臨床現場を意識した問題が多く出題されています。今後は、科目の内容がどのように臨床現場で応用されているのかを見据えて勉強していく必要があります。以下に物理、化学、生物、衛生の特徴や出題傾向、出題例を記載します。学習の一助になれば幸いです。

物理

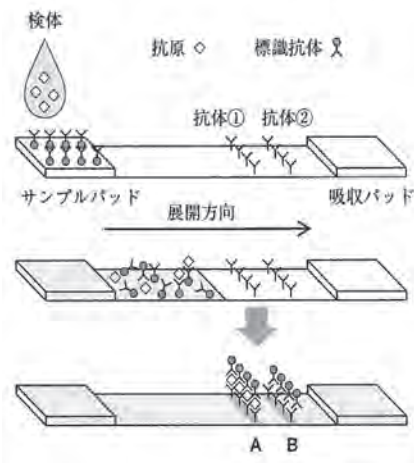
■領域における特徴、出題傾向

臨床現場で実際に使用している臨床機器の原理に関する出題や、医薬品の物性に関する出題など、臨床を意識した出題が多いです。イラストやグラフなどの設定から、その場で考えて解答する「考える力」を必要とする問題が出題されています。

■第103回薬剤師国家試験出題例

第103回国試 問204 (参考正答率40% 解答番号3)

図はインフルエンザウイルス抗原を測定するためのイムノクロマトグラフィーの原理を表している。本法に関する記述のうち、誤っているのはどれか。1つ選べ。



- 1 本法を用いた判定用キットは体外診断用医薬品に区分され、測定試料として鼻腔ぬぐい液や咽頭ぬぐい液などが用いられる。
- 2 本法による判定は目視で行うことができるため、特別な装置を必要としない。
- 3 Aの部分はコントロールラインと呼ばれ、標識抗体に特異的な抗体①

医学アカデミー 薬学ゼミナール



茂木 雄輔
物理科目責任者



林 美樹子
化学科目責任者



小林 あつみ
生物科目責任者



菊池 聡
衛生科目責任者

- 4 Aで発色が認められ、Bで発色が認められなかった場合は陽性とはいえ、再測定する必要がある。
- 5 標識抗体は、金コロイドや酵素などにより標識されている。

■出題例のPOINT

実践問題では、臨床現場で用いられる分析装置の原理に関して多く出題されています。

■領域における学習方法のアドバイス

実践問題で出題の多い範囲は、**反応速度論**、**束一性**、**分子間力**、**画像診断**、**分光分析**です。単なる暗記だけではなく、内容を理解しながら学習を進めていきましょう。

化学

■領域における特徴、出題傾向

必須～実践問題を通し、「暗記」ではなく、「**構造を見て判断する問題**」が多く見られます。基本的な知識の習得と共に、「**知識を構造に結びつける力**」を養いましょう。既出問題を解く際に、「どの知識が必要か」「何が分かれば解けるのか」を意識してください。

つながりを生み出す力で日本の健康をささえる。

阪神調剤ホールディング株式会社